

# 温室効果ガス排出量の現状

## 二酸化炭素（CO2）現況排出量の推計結果

- 綾部市における2019年度のCO2現況排出量は、**265.6千t-CO2**でした。
- 内訳を見ると、産業部門が約5割を占め、運輸部門、家庭部門、業務部門の順となっています。
- 推移を見ると、2015年度から2016年度にかけてやや増加していますが、それ以降は各部門とも排出量が減少してきており、2019年度は2013年度と比較して22.3%減少しています。

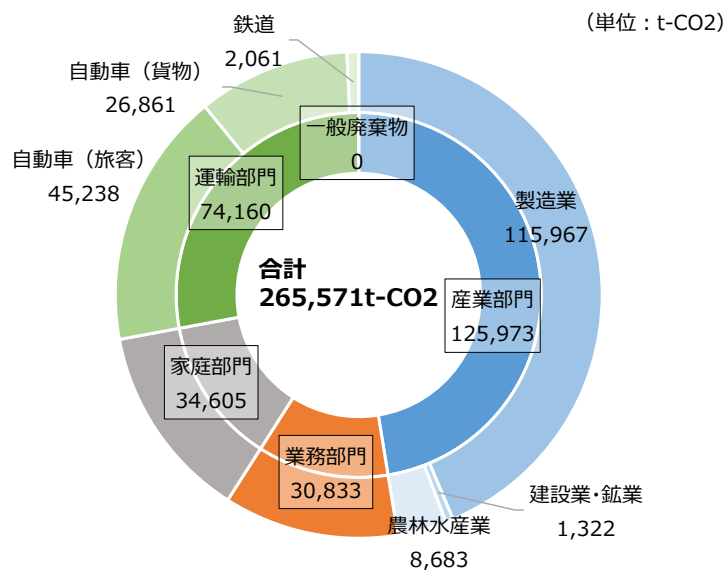


図 綾部市のCO2排出量の内訳（2019年度）

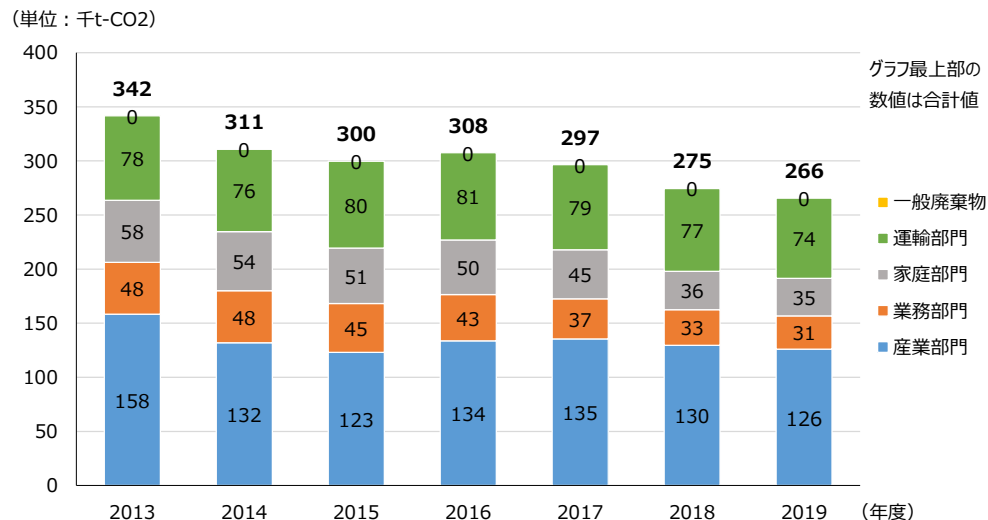


図 綾部市のCO2排出量の推移

表 産業別・分野別のCO2排出量（単位：千t-CO2）

部門	区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
産業部門	産業部門	158.3	131.9	123.0	133.6	135.5	129.5	126.0
	製造業	146.4	122.3	112.3	121.1	124.2	119.5	116.0
	建設業・鉱業	1.9	1.8	1.7	1.7	1.6	1.4	1.3
	農林水産業	10.1	7.8	9.0	10.8	9.6	8.6	8.7
業務部門	業務部門	47.8	48.2	45.1	42.9	37.1	33.0	30.8
家庭部門	家庭部門	57.5	54.4	51.3	50.4	45.4	35.5	34.6
運輸部門	運輸部門	77.9	76.2	80.3	80.7	78.5	76.5	74.2
	自動車	75.2	73.6	77.7	78.2	76.2	74.4	72.1
	旅客自動車	43.7	42.4	49.7	49.8	48.3	46.9	45.2
	貨物自動車	31.4	31.2	28.1	28.5	27.9	27.5	26.9
	鉄道	2.8	2.6	2.5	2.4	2.3	2.2	2.1
	船舶	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般廃棄物	一般廃棄物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>CO2排出量 合計</b>		<b>341.6</b>	<b>310.8</b>	<b>299.7</b>	<b>307.6</b>	<b>296.5</b>	<b>274.5</b>	<b>265.6</b>
<b>2013年比 削減率</b>		<b>0.0%</b>	<b>▲9.0%</b>	<b>▲12.3%</b>	<b>▲10.0%</b>	<b>▲13.2%</b>	<b>▲19.6%</b>	<b>▲22.3%</b>

# 将来の温室効果ガス排出量（BAU排出量）の推計

## 綾部市の将来の温室効果ガス排出量（BAU排出量）推計結果

- 対策を見込まない状態を想定した排出量をBAU（Business As Usual）排出量と呼びます。綾部市の将来のCO2排出量（BAU排出量）は、**2030年が279千t-CO2（▲18%）、2050年が280千t-CO2（▲18%）**と推計されました。
- 2030年以降、総排出量はほぼ横ばいと推計されますが、その内訳を見ると、家庭部門や運輸部門の排出量は人口減少に伴い減少する一方、産業部門や業務部門の排出量は、経済成長と共に増加することが見込まれています。

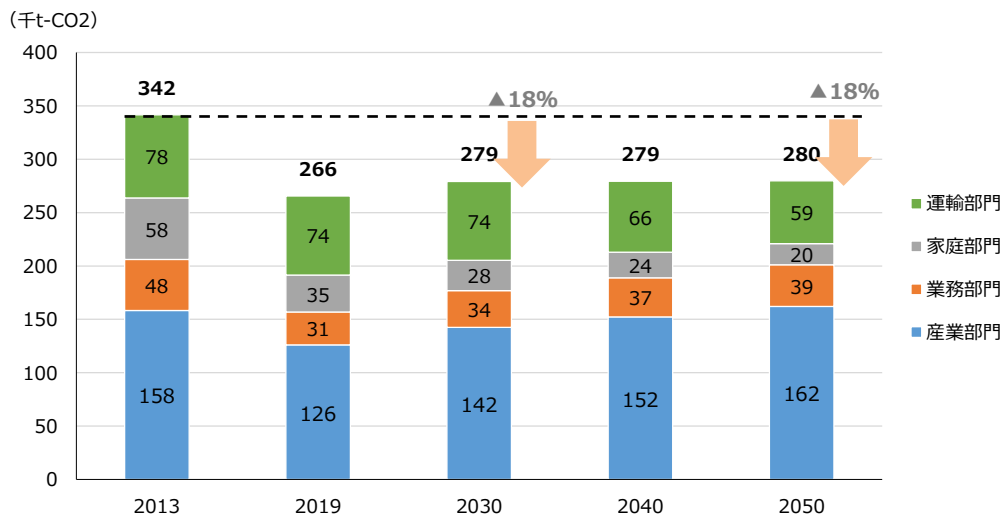


図 綾部市の将来CO2排出量（BAU排出量）推計結果

表 綾部市の将来CO2排出量（BAU排出量）推計結果

項目	年次	実績		BAU推計					
		2013	2019	2030		2040		2050	
		排出量 (千t-CO2)	排出量 (千t-CO2)	排出量 (千t-CO2)	2013年比	排出量 (千t-CO2)	2013年比	排出量 (千t-CO2)	2013年比
産業部門		158	126	142	▲10%	152	▲4%	162	2%
業務部門		48	31	34	▲28%	37	▲23%	39	▲19%
家庭部門		58	35	28	▲51%	24	▲58%	20	▲66%
運輸部門		78	74	74	▲5%	66	▲15%	59	▲24%
合計		342	266	279	▲18%	279	▲18%	280	▲18%

# 温室効果ガス排出量の将来目標の設定

## 綾部市における排出量の将来目標設定の方針

- 綾部市では、国及び京都府の削減目標を踏まえ、2013年を基準年、2050年を目標年、2030年を中間年（マイルストーン）として、以下の基本方針のもと、温室効果ガス排出量の将来目標を設定します。

### <将来目標の基本方針>

- **2050年のカーボンニュートラル（温室効果ガス実質排出量ゼロ）を目指す。**
- **2030年は、国や京都府の目標と同程度以上の削減率を目指す。**
- その上で、2030年、2050年の将来排出量目標は、以下の考え方によって定めます。

#### ○森林吸収量の目標設定の考え方

- 綾部市の森林吸収量の将来目標は、国の森林吸収量の目標をもとに設定します。
- 国の地球温暖化対策計画では、約3,800万t-CO<sub>2</sub>の森林吸収源対策目標が掲げられており、これを全国の森林面積に占める綾部市の森林面積で按分した、41.4千t-CO<sub>2</sub>を綾部市の森林吸収量の目標とし、これが2030年以降維持されるものとします。  
(3,800万t-CO<sub>2</sub> × {26,611ha（綾部市） / 24,432,757ha（全国）} = 41.4千t-CO<sub>2</sub>)

#### ○2030年の排出量目標設定の考え方

- 2030年の削減目標は、国の温暖化対策計画や脱炭素ロードマップ等における省エネ対策や再エネ導入目標を踏まえつつ、綾部市の再エネ導入状況等も考慮して設定します。（現状や既定の目標を踏まえた「フォアキャスト型」の目標設定）。
- 具体的には、部門別に省エネ対策による削減量、再エネ導入による削減量を定め、これらの合計を削減目標とします。

#### ○2050年の排出量目標設定の考え方

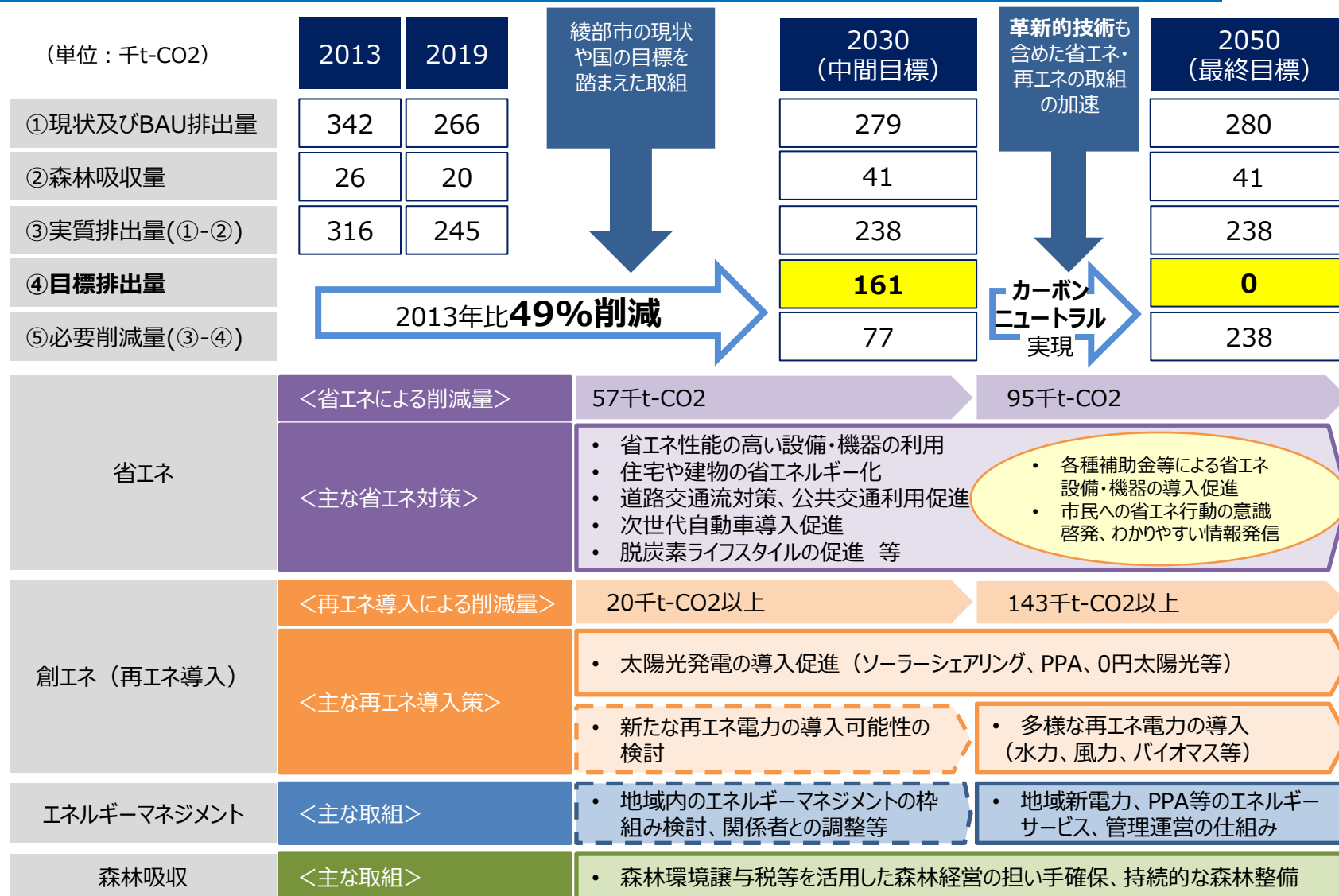
- 2050年は、実質排出量ゼロが目標であることから、森林吸収量に相当する分をCO<sub>2</sub>の目標排出量とします。
- 部門別の排出目標は、全体の排出量を、2050年のBAU排出量の部門別割合によって按分して設定します。

#### ○部門別の排出量目標の考え方

- 産業部門の将来排出量は、産業界の動向に左右される部分が大いものの、将来的には革新的技術が普及することによる全国的な排出量削減が見込まれます。
- 運輸部門の将来排出量は、自動車メーカーによるEV等の性能向上や、自動車価格の低廉化、国民の環境意識醸成が進み、将来的には次世代自動車が普及することによる全国的な排出量削減が見込まれます。
- そのため、綾部市としては、特に家庭部門・業務部門での排出量削減に力を入れて取り組んでいくこととなります。

# カーボンニュートラルの実現に向けたロードマップ

## 綾部市におけるカーボンニュートラル実現に向けたロードマップイメージ



※四捨五入の関係で、図中の排出量等の数値の差が一致しない場合がある